

## 第1回 大和郡山市学校規模適正化等審議会 次第

### 1. 日時

平成30年 6月 5日（火） 午後1時30分開会

### 2. 場所

市議会第1委員会室

### 3. 案件

- (1) 委員の委嘱又は任命
- (2) 教育長あいさつ
- (3) 委員の紹介
- (4) 会長、副会長の選出
- (5) 教育委員会からの諮問
- (6) 大和郡山市学校規模適正化等審議会の傍聴に関する規則について
- (7) 開催スケジュール（案）について
- (8) 大和郡山市学校を取り巻く状況について
- (9) その他

# 大和郡山市の学校を取り巻く状況

## ●大和郡山市公立小中学校の適正規模・適正配置について●

### 1. 背景

近年、全国的な少子化の流れにより児童・生徒数が減少。学校の小規模化に伴い、教育上・学校運営上の様々な課題が指摘されている。

⇒ 児童・生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、切磋琢磨するためには、一定規模の集団を確保することが望ましい。

◆国の基準（昭和33年、文部科学省が学校規模の標準等を設定）

標準学級数：12～18学級

通学距離：小学校でおおむね4km以内、中学校でおおむね6km以内

※標準規模に満たない小・中学校が全国に約半数存在。

### 2. 文部科学省の指針

平成27年1月「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」を作成。教育的な視点だけでなく、地域の様々な事情を総合的に考慮して、学校規模の適正化・適正配置を検討している。

【教育的な視点】

- ・社会性や規範意識を身につけるための一定の規模の児童生徒集団の確保が必要
- ・経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団の配置が必要

【地域コミュニティの核としての性格への配慮】

- ・子どものための質の高い教育環境を整えると同時に、「地域とともにある学校づくり」の視点を踏まえることが必要。

### 3. 審議会設置の目的

- ・児童生徒・学級数の推移や将来推計及び各種調査結果から、本市における現状・課題等の共有を図る。
- ・現状・課題等を踏まえ、児童生徒にとって望ましい教育環境の確保と少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて、調査審議する。
- ・大和郡山市学校規模の適正化・適正配置に関する答申の作成



個別の学校をどうするのか？といった個別議論、取りまとめをするものではなく、市全体での学校規模・配置を具体的に検討する際の留意点、課題、取組手順、方向性等を示した方針をまとめるもの

## ●「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」の概要●

### **適正規模・適正配置について**

#### (1) 学校規模の適正化

- ・小、中学校の標準規模「12学級」を下回る場合の教育上の課題

##### 【学級数が少なくなるデメリット】

(クラス替えができない/多様な指導形態が取りにくい/部活動の限定/集団活動の教育効果が下がる)

##### 【配置される教員の減少によるデメリット】

(バランスのとれた教員配置が困難/個人の力量への依存度が高まる/多様な指導方法を取るのが困難)

- ・1学級の児童生徒数や学校全体の児童生徒数、将来推計などの観点も合わせた総合的な検討

#### (2) 学校の適正配置

小学校でおおむね4km以内、中学校でおおむね6km以内を基準と定め、通学時間についても、おおむね1時間以内を目安とする。

### **学校統合に関して留意すべき点**

#### (1) 学校統合の適否に関する合意形成

適切な検討体制を整備し、保護者や地域住民の意向が反映できるような工夫を講じる。

#### (2) 魅力ある学校づくり

学校運営協議会などを設置し、地域の創意工夫を生かし特色ある学校づくりに結びつける。

#### (3) 統合により生じる課題への対応

多様な交通手段への対応/通学路の安全確保/児童生徒にとっての環境変化への対応

### **小規模校を存続させる場合の教育の充実**

様々な事情から統合を進めることが困難であり、小規模化のまま存続が必要であると考えられる場合は、小規模校のデメリットを最小化し、メリットを最大化する方策を講じる必要がある。

#### (1) 小規模校のメリットの最大化

- ・ICTを効果的に活用し、基礎学力を全ての児童生徒に保障
- ・個別指導や補習の実施、修業年限通じた繰り返し指導の徹底
- ・校区の自然・文化・伝統・産業資源を生かした特色あるカリキュラムの編成

#### (2) 小規模校のデメリット緩和策

- ・小中一貫教育の導入により、全体として一定の集団規模の確保
- ・児童福祉施設、社会福祉施設等との複合化により、異年齢交流の機会を増やす。
- ・同世代の水準や他校を意識させる指導（各種調査結果の活用、検定やコンクールの活用）

	小規模化		大規模化	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
学習面	○児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○1 学年 1 学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。	○集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。	○全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
	○学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	○運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ○児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。	○運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ○児童・生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。	○学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
		○部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。	○様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。	
生活面	○児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○異学年間の縦の交流が生まれやすい。	○クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ○集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ○切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。	○クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ○切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。	○学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
	○児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。	○学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。	○全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
学校運営面・財政面	○全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ○学校が一体となって活動しやすい。	○教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ○学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ○一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ○教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。	○教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ○学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ○校務分掌を組織的に実行しやすい。 ○出張、研修等に参加しやすい。	○教職員相互の連絡調整が図りづらい。
	○施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	○子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。	○子ども一人あたりにかかる経費が小さくなりやすい。	○特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。
その他	○保護者や地域社会との連携が図りやすい。	○PTA 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。	○PTA 活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。	○保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

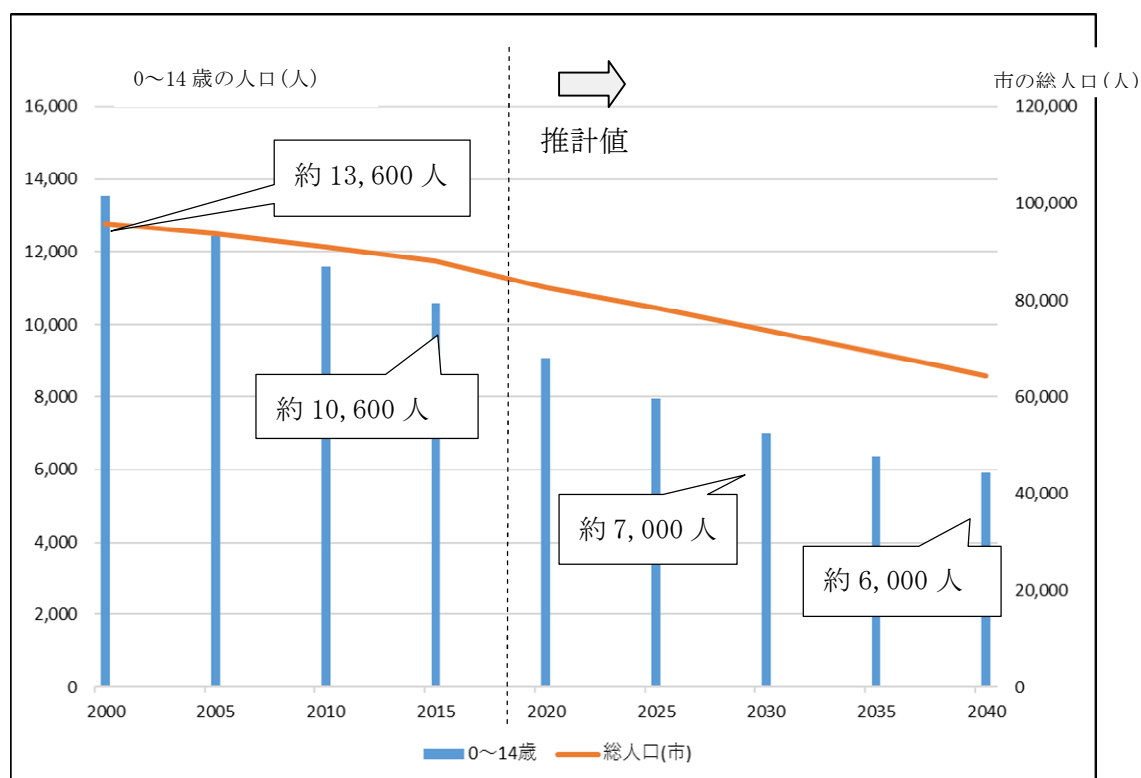
文部科学省HPから抜粋

## ●人口等の現状●

### (1) 人口の推移及び推計

大和郡山市の総人口は、1998年（平成10年）をピークに減少に転じています。年少人口（0歳-14歳）の推移をみると、1985年（昭和60年）以降減少に転じており、2000年（平成12年）と比較して、2015年（平成27年）では、約3,000人減少しており、約10,600人となっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年の年少人口は約6,000人まで減少すると予測されています。

### ■大和郡山市の人口の推移及び推計

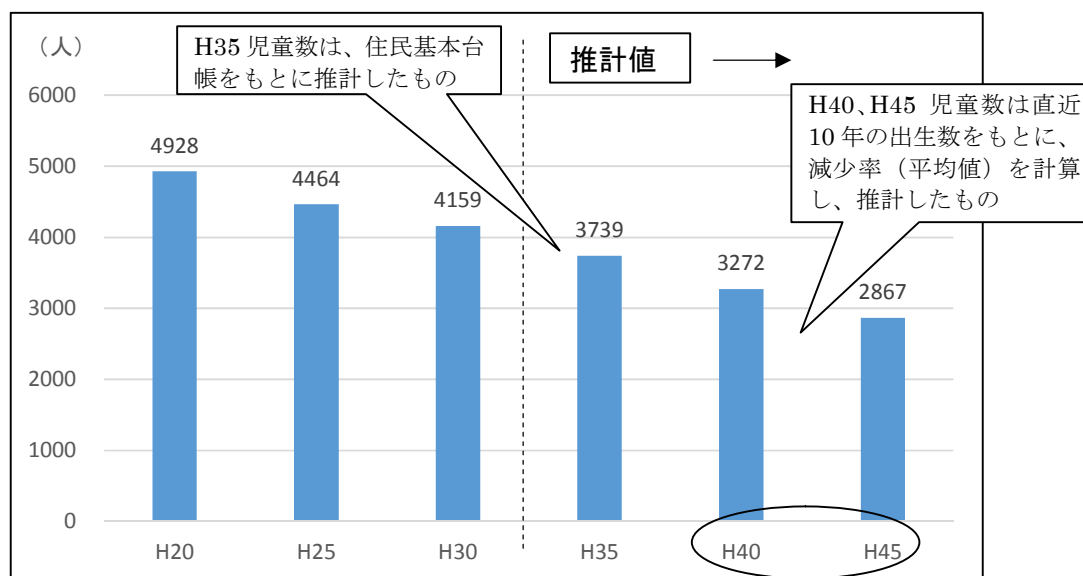


資料：日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

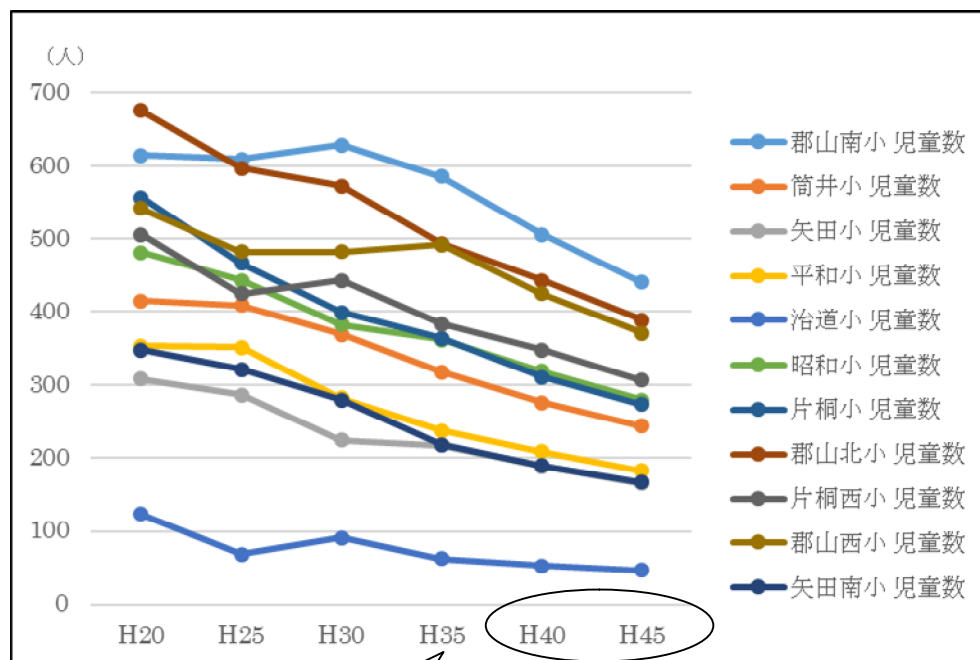
## (2) 小学校児童数、学級数の推移

小学校の児童数をみると、減少傾向が続いており、H45 推計では、H20 と比べ市全体で4割以上の減少が見込まれます。学級数をみると、H30 現在治道小学校では、各学年1学級となっています（平成24年度より小規模特認校に指定）。また、平和小学校、矢田小学校、矢田南小学校においては、学年によってはクラス替えができない状態となっています。

### ■小学校児童数の推移（全体）



### ■小学校児童数の推移（学校別）



H35 児童数は、住民基本台帳をもとに推計したもの

H40、H45 の各校の児童数は、各学校に通う校区ごとの児童数の割合をもとに推計したもの

■小学校児童数、学級数の推移

施設名	項目	H20	H25	H30	H35	H40	H45	増減数	増減率
郡山南小	児童数	615	610	629	586	506	441	▲ 174	72%
	学級数	20	20	19					
筒井小	児童数	415	409	370	319	277	244	▲ 171	59%
	学級数	14	14	12					
矢田小	児童数	309	287	225	218	189	165	▲ 144	53%
	学級数	13	12	9					
平和小	児童数	354	352	283	238	209	183	▲ 171	52%
	学級数	13	12	11					
治道小	児童数	123	68	91	62	52	46	▲ 77	37%
	学級数	6	6	6	H24～小規模特認校に指定。H35以降の児童数は、校区内の児童数のみを推計				
昭和小	児童数	482	443	383	363	320	280	▲ 202	58%
	学級数	17	15	14					
片桐小	児童数	557	467	399	364	312	274	▲ 283	49%
	学級数	18	17	14					
郡山北小	児童数	676	598	573	494	443	389	▲ 287	58%
	学級数	23	20	19					
片桐西小	児童数	506	425	443	384	349	307	▲ 199	61%
	学級数	17	15	17					
郡山西小	児童数	542	483	483	492	425	371	▲ 171	68%
	学級数	19	18	18					
矢田南小	児童数	349	322	280	219	190	167	▲ 182	48%
	学級数	13	13	11					
合計	児童数	4928	4464	4159	3739	3272	2867	▲ 2061	58%
	学級数	173	162	155					

※学級数は特別支援学級の数を除く

※増減数及び増減率は、H45（推計）とH20を比較

■ H35は、住民基本台帳をもとに推計

■ H40, 45は直近10年の出生数をもとに、減少率（平均値）を計算し、推計したもの

■小学校別学年別児童数、学級数（平成30年5月1日現在）

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計	特別支援学級	合計
郡山南小	児童数	101	87	108	108	91	114	609	20	629
	学級数	3	3	3	3	3	4	19	4	23
筒井小	児童数	55	49	69	68	61	56	358	12	370
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	4	16
矢田小	児童数	31	28	37	38	45	43	222	3	225
	学級数	1	1	1	2	2	2	9	2	11
平和小	児童数	37	46	36	50	47	57	273	10	283
	学級数	2	2	1	2	2	2	11	2	13
治道小	児童数	11	22	13	11	9	20	86	5	91
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	7
昭和小	児童数	65	51	62	65	68	50	361	22	383
	学級数	3	2	2	2	3	2	14	5	19
片桐小	児童数	58	66	58	61	65	72	380	19	399
	学級数	2	2	2	2	3	3	14	4	18
郡山北小	児童数	94	105	85	85	90	94	553	20	573
	学級数	3	4	3	3	3	3	19	4	23
片桐西小	児童数	55	73	67	77	73	80	425	18	443
	学級数	2	3	3	3	3	3	17	3	20
郡山西小	児童数	94	72	78	68	84	71	467	16	483
	学級数	3	3	3	3	3	3	18	4	22
矢田南小	児童数	38	33	52	44	51	55	273	7	280
	学級数	2	1	2	2	2	2	11	2	13

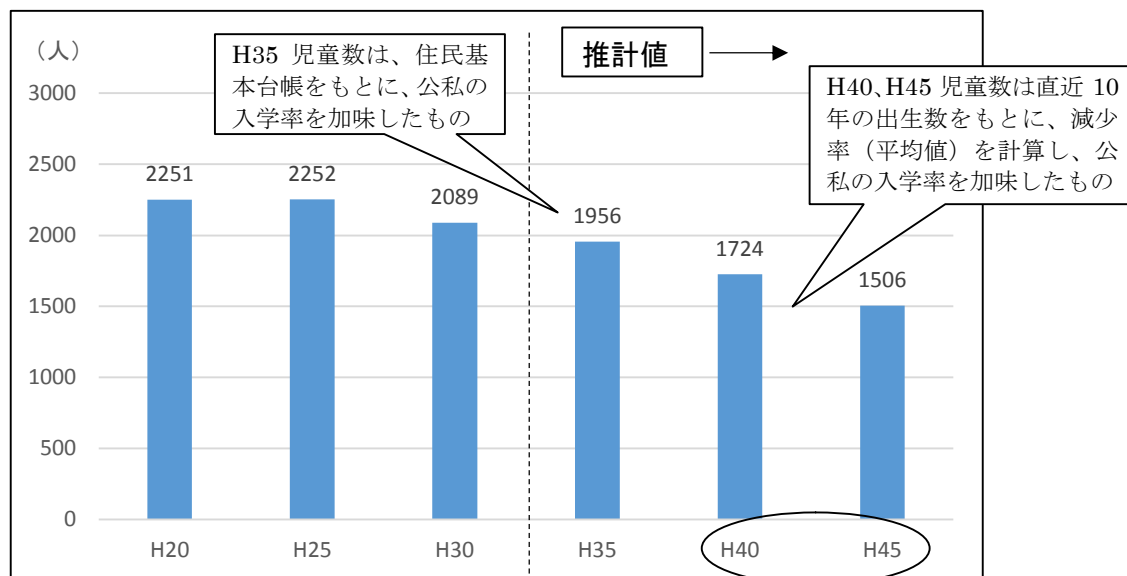


### (3) 中学校生徒数、学級数の推移

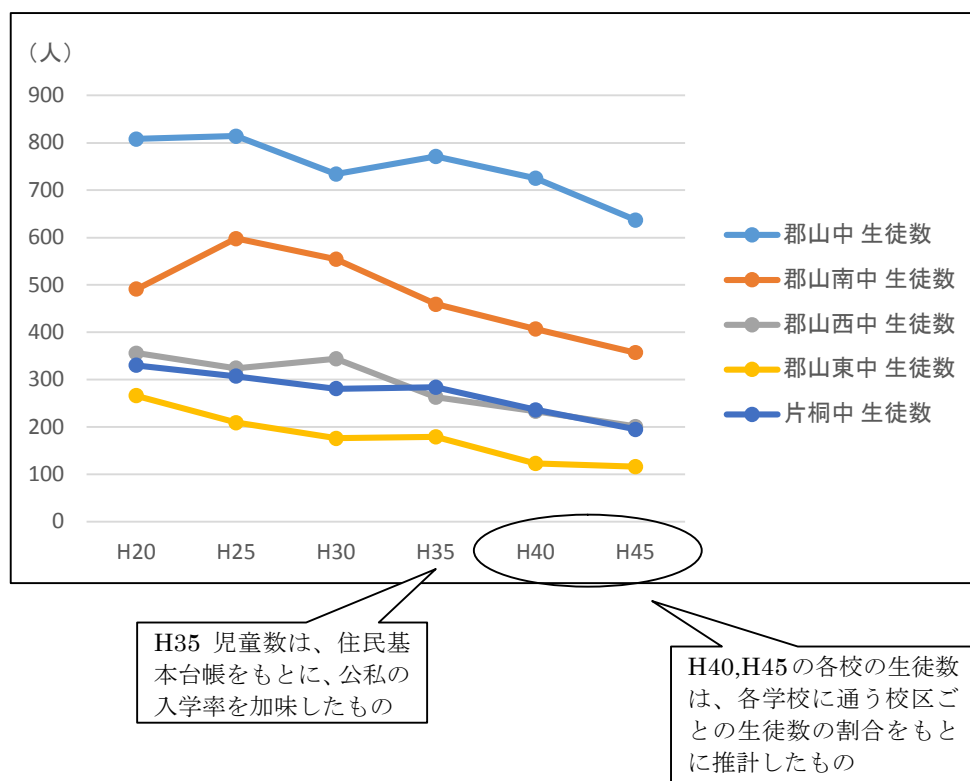
中学校の生徒数の推移をみると、市全体では、過去10年間で平成21年度が最多く2,277人となっています。H45推計では、H20と比べ市全体で3割以上の減少が見込まれます。

各校の増減率を比較すると、郡山中学校が約2割減少するのに対し、郡山南中学校は3割近く、郡山西中学校・郡山東中学校・片桐中学校は4～5割の減少が見込まれ、生徒数の差が大きくなることが予想されます。

#### ■ 中学校生徒数の推移（全体）



#### ■ 中学校生徒数の推移（学校別）



### ■中学校生徒数、学級数の推移

施設名	項目	H20	H25	H30	H35	H40	H45	増減数	増減率
郡山中	生徒数	808	814	734	771	725	637	▲ 171	79%
	学級数	23	25	21					
郡山南中	生徒数	491	598	554	459	407	357	▲ 134	73%
	学級数	15	18	17					
郡山西中	生徒数	356	324	344	263	233	201	▲ 155	56%
	学級数	12	11	12					
郡山東中	生徒数	266	209	176	179	123	116	▲ 150	44%
	学級数	9	7	6					
片桐中	生徒数	330	307	281	284	236	195	▲ 135	59%
	学級数	12	11	9					
合計	生徒数	2251	2252	2089	1956	1724	1506	▲ 745	67%
	学級数	71	72	65					

※学級数は特別支援学級の数を除く

※増減数及び増減率は、H45（推計）とH20を比較

■ H35は、住民基本台帳をもとに、公私の入学率を加味したもの

■ H40, 45は直近10年の出生数をもとに、減少率（平均値）を計算し、公私の入学率を加味したもの

### ■中学校別学年別生徒数、学級数（平成30年5月1日現在）

		1	2	3	小計	特別支援学級	計
郡山中	児童数	230	242	248	720	14	734
	学級数	7	7	7	21	3	24
郡山南中	児童数	167	178	192	537	17	554
	学級数	5	6	6	17	5	22
郡山西中	児童数	105	109	122	336	8	344
	学級数	4	4	4	12	3	15
郡山東中	児童数	55	54	64	173	3	176
	学級数	2	2	2	6	2	8
片桐中	児童数	90	90	91	271	10	281
	学級数	3	3	3	9	4	13

奈良県内の統合再編の状況(平成20年～30年度)

【小学校】

市町村名	統合年度	前年度学校名	児童数	統合再編後学校名	児童数	H29年度児童数
山添村	H20	北野小学校 やまぞえ小学校	38 139	やまぞえ小学校	167	125
高取町 (1小1中)		高取小学校 育成小学校	197 162	たかむち小学校	352	333
川西町 (1小、1組合立中)	H21	結崎小学校 唐院小学校	391 51	川西小学校	440	418
宇陀市	H22	大宇陀小学校 守道小学校 田原小学校	171 32 42	大宇陀小学校	224	H25年 再統合再編
十津川村 (5小1中)		上野地小学校 二村小学校 三村小学校	17 26 33	十津川第一小学校	82	45
奈良市	H23	大柳生小学校 相和小学校	17 43	興東小学校	59	44
宇陀市	H25	大宇陀小学校 野依小学校	32 42	大宇陀小学校	249	235
平群町 (3小1中)	H26	平群東小学校 平群西小学校	322 100	平群小学校	412	360
奈良市	H27	精華小学校 帯解小学校	15 120	帯解小学校	130	127
宇陀市	H28	室生西小学校 室生東小学校	96 70	室生小学校	157	142
奈良市	H29	並松小学校 都祁小学校 吐山小学校 六郷小学校	50 93 34 34	都祁小学校	222	222
十津川村	H29	平谷小学校 西川第一小学校 西川第二小学校	34 14 8	十津川第二小学校	54	54

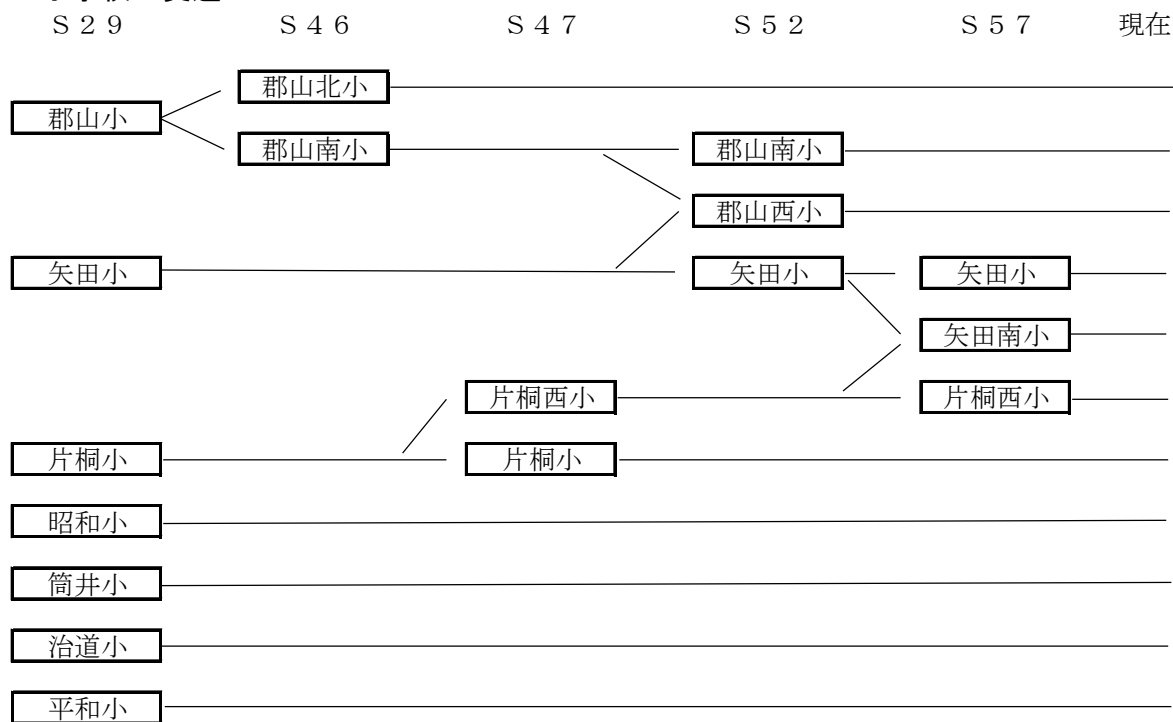
【中学校】

市町村名	統合年度	前年度学校名	児童数	統合再編後学校名	児童数	H29年度生徒数
十津川村	H24	上野地中学校 小原中学校 折立中学校 西川中学校	18 16 32 20	十津川中学校	81	67
奈良市	H27	興東中学校 柳生中学校	23 19	興東館柳生中学校	42	49
天川村	H30	天川中学校 洞川中学校	17 15	天川中学校		

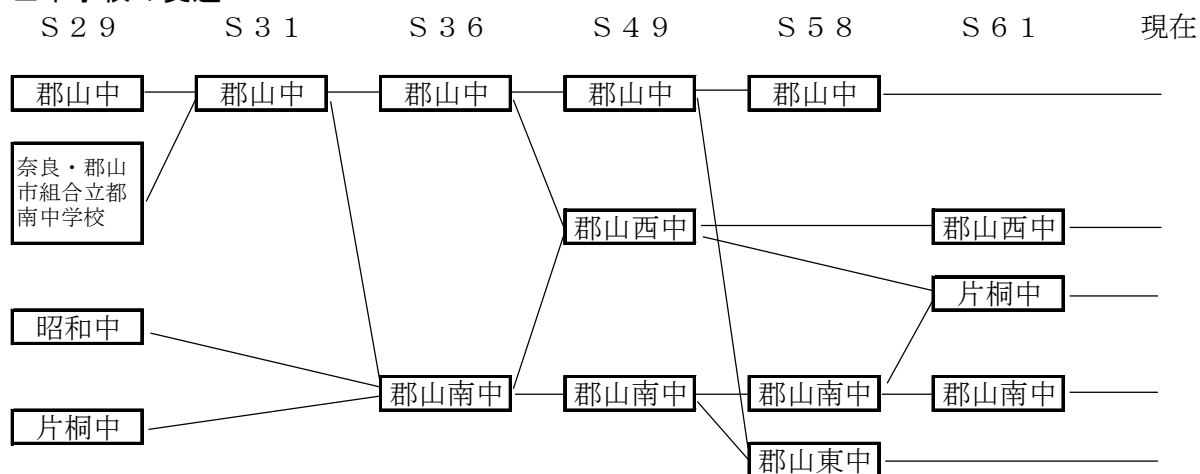
## ●大和郡山市の学校の変遷●

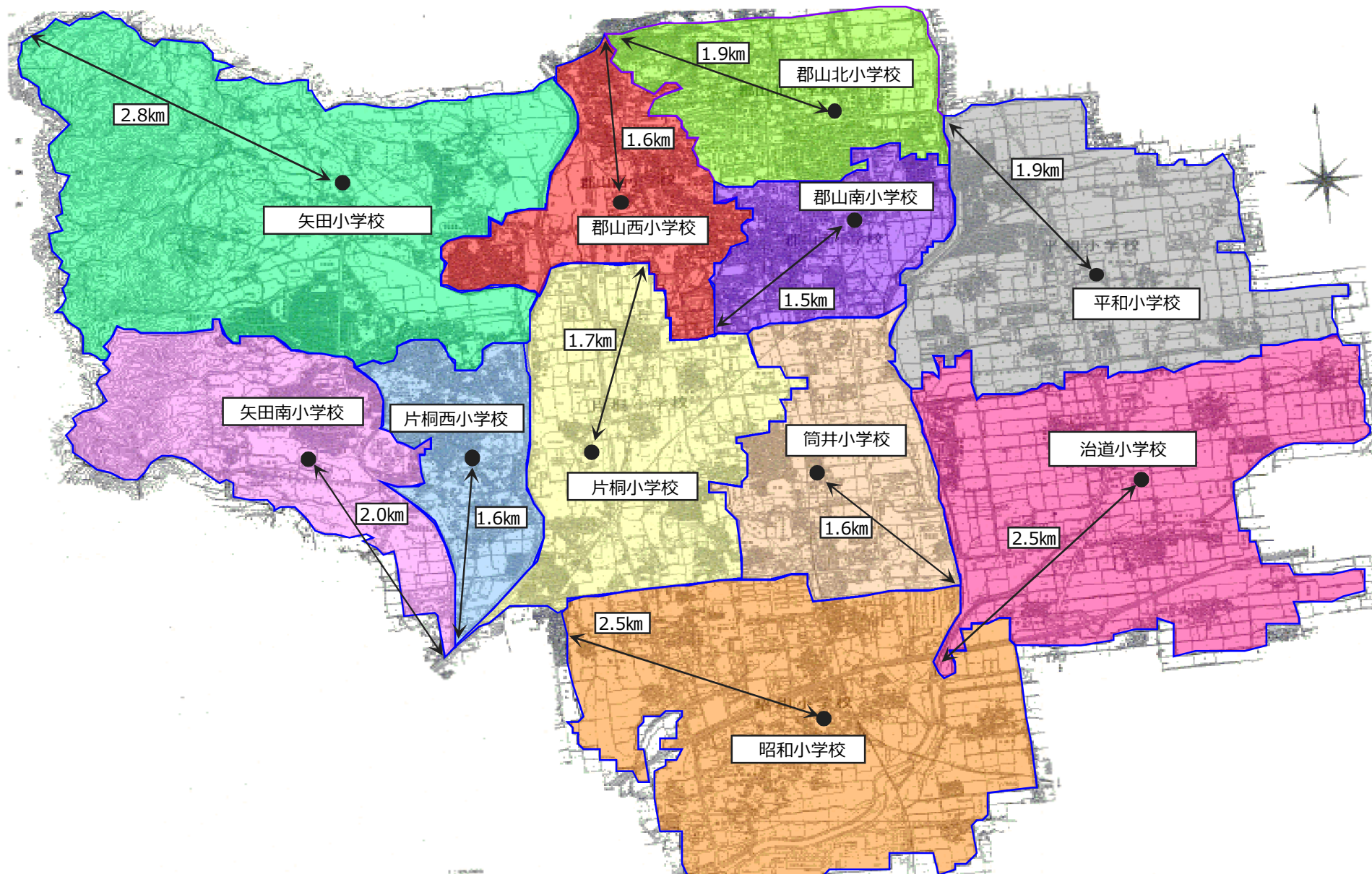
大和郡山市が誕生した昭和29年度の学校は小学校7校、中学校4校（うち1校は奈良市との組合立中学校）でした。その後の人口増加により、小学校においては、昭和46年に郡山小が郡山北小と郡山南小に分かれ、昭和47年に片桐西小、昭和52年に郡山西小、昭和57年に矢田南小が開校されました。中学校では、昭和31年に奈良市との組合立中学校が廃校、昭和36年に昭和中と片桐中が郡山南中に統合され、昭和49年に郡山西中、昭和58年に郡山東中、昭和61年に片桐中が開校されました。現在は小学校11校、中学校5校となっています。

### ■小学校の変遷



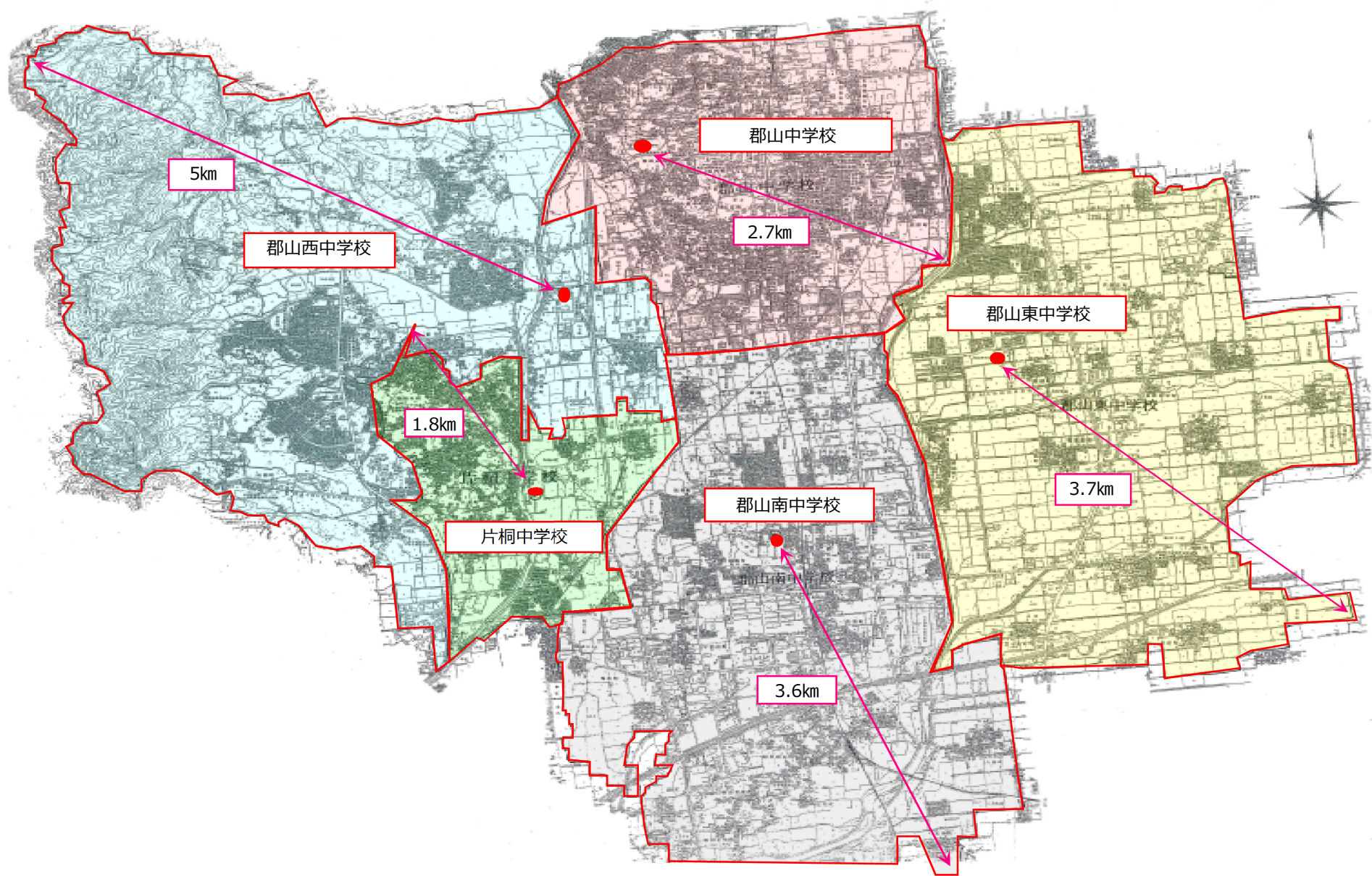
### ■中学校の変遷





大和郡山市内学校区

小 学 校



大和郡山市内学校区

中学校